

第51回広報・見える化部会 会議録	
日 時	令和4年9月21日（水）10時00分～12時00分
開 催 場 所	市庁舎18階 共用会議室さくら14
出 席 者	国吉委員、高田部会長、高橋委員、村松委員、望月委員（五十音順）
欠 席 者	奥井委員
開 催 形 態	公開（傍聴0人）
議 題	1 広報事業の評価・提案について 2 その他
議 事	<p>（事務局） ただ今から、横浜みどりアップ計画市民推進会議第50回広報・見える化部会を開催いたします。</p> <p>まず、本日の会議について報告します。本会議は、要綱の第5条第2項により半数以上の出席ということが成立条件になりますが、本日、出席されている委員の方は、5名ということで会議が成立することを報告させていただきます。</p> <p>また、本会議ですが、第8条により、公開となっており、会議室内に傍聴席、記者席を設けております。また、本日のこの会議録につきましても公開とさせていただきます。会議録は委員の皆さまに事前にご確認をいただきたいと思っております。なお、会議録には個々の発言者の氏名を記載することとしておりますのでご了承くださいたいと思っております。さらに、本会議中において写真撮影を行い、ホームページおよび広報誌へも掲載させていただくことも併せてご承願いたします。</p> <p>会議資料は、事前に送った次第、資料1です。机の上には、「2021年度事業目標及び進捗状況」も配付しております。土日をはさんで郵送が遅れて申し訳ございませんでした。事務局からは以上になります。それでは、今後の進行につきましては高田部会長にお願いします。高田部会長、よろしく願いいたします。</p> <p>（高田部会長） 今日は久しぶりに望月先生に会えて、うれしく思います。よろしく願いいたします。</p> <p>先日のいはる里山交流センターでの取材、お疲れさまでした。なかなか活発な学生たちに会えて、色々な活動の様子や意見が聞けたと思います。</p> <p>受講生には事前に作成したアンケートを書きいただきました。本来は事前にメールなどで皆様と審議する予定でしたが、時間が無く、受講生に事前に承認していただき記載いただきました。事務局もありがとうございます。</p> <p>今後またアンケートが取れる機会もあつたらいいのかなと思います。皆様と最初から審議しながらアンケートを配るのもよいのかなと思います。その点もよろしく願いいたします。</p>

個人的には、森ボランティアの申込みを出し直し、ちょうど今回の取材のお知らせが私にも届きました。

それでは、次第の順にいきたいと思います。「広報事業の評価・提案について」です。事務局から、ご説明をよろしくお願いいたします。

(事務局説明)

(高田部会長) では、効果的な広報の展開について、皆様から意見や質問をお願いします。

(高橋委員) 環境創造局の Twitter は私もたまに見ます。みどりアップ計画の情報発信が増えていることは確認しています。随分増えて良いことだと思います。

若年層にも知っていただく機会をつくる上で、「横浜みどりアップ計画はSDGsに貢献しています」というようなキャッチコピーとSDGsのアイコンを広報パンフレットに入れると良いと思います。公園愛護会通信は愛護会の人たちに出しているようですが、77号には「公園愛護会はSDGsに貢献しています」という形で出ていました。一般市民に広報する上で、SDGsのアイコンを入れて、貢献していることをうたったらよいのではないのでしょうか。みどりアップ Action にもSDGsのアイコンを入れたりしやすくなるのかなと思います。

(村松委員) この3か年の実績・評価の冊子の3-89を見ると、総合評価がBになっています。実績を見ると、アニメやTwitterが充実してきています。認知度40パーセント台では少ないということかと思いますが、3か年ですから、コロナが入ってしまって落ちたのかなと思います。Bになった根拠はどういうことでしょうか。

(事務局) 総合評価については、数値目標として、何ヘクターとか何箇所といった取組が多くあります。仮に点数で言うと予定より1.5倍ぐらいあったものがAを付けやすいというのがまずあります。

こういった目標が「推進」になっているものについては、我々が中身を見ていきます。広報については、中身で「よくやった」というのが見えにくいところがあります。

そういうところでBにはしています。我々として、明確に数値に表れてきて、例えば「認知度が5ポイント以上、上がった」といった形で出てくると、堂々とAを付けることができると思っています。Twitterの件数や広報よこはまの掲載回数などについては、もちろん我々も予定したものの以上やっていると自負していますが、それがどこまで市民に響いているのか、我々も検証ができていない中でBにとどめています。

(村松委員) 「普通」という感じですか。

	<p>(事務局)           そうですね。我々としては「普通」と評価しました。市民推進会議の報告書で評価やコメントをもらえると有り難いです。</p>
	<p>(村松委員)           現場で「みどりアップをやっている」というのが分かるようにすると、通りかかった人や活動している人が分かると思います。花とみどりは見かける気がしますが、農に関してはあまり見かけません。水田の保全や用水路の整備がありますし、私の行っている畑でも土砂の流出防止をやってもらいました。そういうところに「みどりアップです」とプレート等で書いておくと、「ああ、そうか」と分かる気がします。</p> <p>直売所は自販機をけっこう見かけます。地産地消にはみどり税は充てていないのですか。</p>
	<p>(事務局)           みどり税を充てている事業、充てていない事業があります。みどりアップ計画というくくりでは広報の対象にはなりません。</p> <p>農は農独自のキャラクターをつくり、「横浜農場」をプロモーションしています。みどりアップ計画の地産地消の取組にも「横浜農場」をつけています。みどりアップ計画と地産地消の横浜農場と、元をたどれば一緒なのですが、広報の仕方がそれぞれになってしまっているところは、もしかしたら一つの課題としてこれから考えていかないといけないかもしれません。</p>
	<p>(村松委員)           農のほうが必要な方法でずっと広報に取組んでいるのでしょう。</p> <p>「横浜農場」よりも「葉っぱー」のほうが目立ちます。子どもの目にもつきます。「葉っぱー」を色々なところに登場させたらいいと思います。</p>
	<p>(事務局)           表示は増やしていけるように努力していきたいと思いません。</p>
	<p>(村松委員)           市民農業大学講座など、人材育成が一番大事です。知っていただくだけではなく、参加していただくことが私の願いです。広報誌を「Action」という名前にしたのも市民自らが行動や啓発に動いてもらいたい為です。参加しようと思ったら「こういうふうにできます」というのがいたるところにあるといいです。</p>
	<p>(国吉委員)           広報で「認知度」というところが問題になっているのかなと思います。B評価だとちょっと寂しいです。</p> <p>仕事柄色々な園芸の人から「横浜市はお金があっというね」と言われて、グサッと来ました。花壇がとても華やかな様子を見て「外側から見ているとそういう印象なんだ」というのがありました。でも、使われている費用は、実は私たちの税金です。個人と企業が出すみどり税を使ってこれが体現できていることをもう少しアピールしたほうがいい</p>

いのかなと思います。

確かに華やかな部分は必要だと思います。そこからアピールするのも大切ですし、農や森にも使われていることのアピールも必要です。

先日、森に行っても若い人たちが熱心に講座に参加していました。もう少し開拓していくと、そういうところにもアピールできる部分があるのかなと思いました。

今、若い人たちは環境に非常に興味を持っています。本当にダイレクトに訴えられるところだと思います。森づくりボランティア講座のほかにも、Twitter などを利用し、「こういうところにも使われているのだ」というのをもう少しアピールできるといいのかなという気がしました。

私も横浜に来て、「本当にたくさん野菜をつくっているのだな。畑もあるのだな。」というのが驚きでした。直接的に見える形としては、例えば食育があります。最近では高齢者が自宅で無料で、おいしくて安心安全なものを食べるということがあります。健康というところでアピールするのも一つの手なのかなという気がしました。

「葉っぱー」は確かにかわいいです。横浜市の「葉っぱー」ということでゆるキャラ的にもう少しアピールしたらと思います。

先日も赤レンガで、YouTuber が企画した園芸のお祭りがありました。関連の人がいたので、私も行ってきましたが、若い人たちがけっこう来ていました。そこに行って「葉っぱー」をアピールしたり、区役所や普段の生活でみんなが利用しているところに突然現れてもいいと思います。若い母親たちもすぐ写真を撮りたがるので、子どもたちと一緒に写真を撮って Actionなどを配布したらと思います。高齢者には健康というところで、ウォーキングもできるし、地産地消でおいしいものも食べられるところや、目にも美しい花壇があるところをアピールできると一番いいのかなという印象があります。

新横浜の日産スタジアムのサイネージはけっこう大きいです。私も車でよく通ります。普段でも横断歩道で止まっている人が見えています。サッカーやイベントがあるときにはたくさんの方が来るので、きっと見ているのだろうと思います。電車に乗っているときにも見えます。けっこう見ている率は高いのかなと思います。

この1年で、花壇の「みどり税を使っている」という表示は、ひいき目でなく随分増えたかなと思います。みどり税が使われているという目で見ている人は増えているのではないかと思います。

(高田部会長)

先ほど皆さんが言っていた表示のところですが、私たちの団体は地域みどりの助成金をもらった最初から10年目になりました。5年間助成してもらい、そのときに出来上がったところから順番にプレートを入れました。古びてしまったり、傷んでしまったりしたものもあります。私たちのところだけでなく、各地でそういう状況が起きているのではないかと思います。

なくなってしまったところは仕方ないですが、皆さんでしっかり守っているところもたくさんあると思います。今のプレートに換えるなり、増やすなり、フォローしてもらえたらと思います。せつかく出来上がったところがもっていないと思います。何しろ現場が第一の皆さんへのアピールだと思います。

活動している者にとっても、知らせが来たり、アプローチしていただくことにより、「しっかりやろう」という思いやエネルギーもいただけるのではないかと思います。

若い人の認知度が低くて 50 歳以上が高いことについて、アンケートはどうやって取ったのですか。

(事務局) 市民 20 歳以上 5,000 人に無作為で手紙を送り、1,564 人から返ってきました。その結果としてまとめています。

(高田部会長) 毎回、大体同じ状況で取っているんですね。

(事務局) そうです。推移が分かるように取っています。

(高田部会長) これが数字としてリアルに出てきているということはもう少しということですよ。

先ほど動画を見せていただきました。そこに市民推進会の広報誌 Action があることを入れていただけないでしょうか。同じ広報をしているのであれば、さりげなくそういうのがあるということだけでも伝えたらと思います。誰かが目にして、「あの時見たあれか」と、だんだんにつながっていくと思います。広告は 7 回ぐらい見てやっと買ってもらえるといいます。色々なところで目にするのが重要です。

先日、新治市民の森に森づくりボランティア入門講座の取材で行きました。あの講座で森づくりボランティア活動証明カードが出るのか出ないのか、私もよく分かりませんでした。もらえるのかなとも思っていたのですが、あれはまた違う講座でもらえるのですか。

(事務局) 森づくり体験会ではカードを配付しています。

(高田部会長) 体験会のみで出すということでしたか。学生にカードの話したら、「欲しい。今回はないのか。」と言われました。大学生でしたが、「あれば絶対いい」と言っていました。

「今回の講座をどうやって調べたのか」と聞いたら、「特別に誰かから勧められたのではなく、本当にボランティアをしたいと思ったので、検索してホームページを探してここに行き当たった」と言っていました。本当に純粋な意味の広報から来ていました。そういう人の意見は本当にバイアスもかかっていなくて、貴重だと思いました。

カードには「葉っぱー」の絵も付いています。たまたま私が持っていたので、「こんなものです」と見せました。そうしたら「欲しい」と言われました。私たちが思っている以上に若い人たちは関心を持ってもらえるというのは

	<p>あるかなと実感しました。</p> <p>広報で動画を作ってバスで流したそうですが、皆さんにもっと見てもらいたいのであれば、バスの全面に広告をいれたらと思います。</p>
(事務局)	<p>ラッピングバスですね。バスに乗らない人も見てくれます。</p>
(高田部会長)	<p>あれはすごく効果があるのではないかと思います。費用対効果の問題もあるとは思いますが、動画だとどうしても見る人と見ない人がいます。バスはたくさんの人に見てもらえますので、検討してもらえたらと思います。</p>
(事務局)	<p>確かに費用対効果というのはありますが、どれが響いているのか分かりません。色々やってみて、反響があったものを評価していけばいいという考えで今やっています。Twitterも手探りです。どんなものに「いいね」が付くか読めません。「これは『いいね』の数が普段の倍ぐらいあったけれど、どうしてだろう」という感じです。そういうことをどんどん続けることで、何をすれば反響があるのかがつかめてくるのではないかと考えて、今、幅広にやっています。</p>
(高田部会長)	<p>その姿勢で大変頼もしく思います。よろしく願います。</p>
(高橋委員)	<p>11月6日には、森づくりボランティア入門講座で実際に森づくり体験をするようです。最後の日に森づくりボランティア活動証明カードが出るのでしょうか、道具の扱い方の後、フィールドで森づくり体験をやるとなっています。そういうニーズがあるのなら確認してもらって、よければ活動証明カードを出してもらえたらと思います。研修を受けてボランティアするという流れは、本来の道筋です。口コミで広がっていけばと思います。</p> <p>最初から体験会という愛護会の人にも負担に思うことが多いかもしれません。この森づくりボランティア入門講座はすごくいい話だと思います。せっかく最終日に体験できるのなら、もっと先へ行くためのきっかけづくりに森づくりボランティア活動証明カードを出しても問題ないと思います。</p>
(高田部会長)	<p>本当に出していただけることになったら、次回の広報には「ここでは森づくりボランティア活動証明カードも出る」というのを入れていただきたいです。広報はやってみないと分からないというのがあります。カードができたからにはどんどん入れたほうが良いと思います。</p>
(事務局)	<p>11月6日の件は確認します。「葉っぱー」を入れたデザインも考えた上でカードを作っています。きっかけから実際に担い手になるような、より効果的なプロジェクトがで</p>

きるように中でもう1回もんでみます。

森づくりボランティア活動証明カード上部に「森づくり体験会」と書いてあります。体験会に参加するともらえるという形です。裏にはみどりアップ計画の二次元バーコードがあります。昨年度配付したら非常に好評でした。名前を自身で書いていただくなどありますが、効果はあるということです。

(国吉委員)

参加はやはり大切です。森づくりボランティア活動証明カードもすごくいいと思います。園芸ボランティアでも施設から何かしらのカードをもらえるということで、高齢で参加している人が非常に多いです。ラジオ体操ではないですし、今の時代すごくアナログですが、若い人も年輩者も、自分が参加しているという気持ちになるものが必要なのかなと思います。気軽に参加できる機会がもっと増えたらいいのかなと思います。

これから球根の季節になり、「みんなで公園に行って球根を植えよう」と、Twitterで広報すれば、家族連れで来ると思います。1か所でも2か所でもいいし、20分でも30分でもいいです。説明を受けてみんなで植えたと思います。参加することによって、球根をもらって、自分がちゃんと税金を払っていることの確認作業があると、もう少し認知度も上がっていくのかなという気がします。幼稚園や学校でも、次世代の横浜市民に向けたみどり税をアピールする機会にもなると思います。公共的なところで配られたものを植えたり、何か参加するときにはカードなりがあつて、機会がもっと増えればいい気がしました。

(高橋委員)

公園愛護会の球根ミックスを植えたときに、町内の人などに「ボランティアで手伝いませんか」と言って、手伝ってくれた方に例えば「地域緑化ボランティア活動証明カード」を配ったらいいと思います。公園愛護会も人数が少なくなっています。カードをきっかけに手伝う人が増えるのかなと思います。森づくりだけでなく緑化のほうでもあるといいかもしれません。

(高田部会長)

色々とみどりアップでやっていることでカード化できればいいかもしれません。

(望月委員)

今年でみどりアップ計画が始まって14年目になります。市内色々な場所にみどりアップがあります。市営地下鉄やバスにも広告があります。相当、定着してきたと思います。市民の皆さんにみどりアップを広げるという話がありますが、今後考えなければならぬのは、横浜市内に限る広報の必要はありません。全国に広報していくことを考えたほうがいいのかと思います。

「みどりアップ推進課」という部署は横浜にしかありません。こういう取組を地道に取り組んでいくということは、市町村で見ても例はありません。ましてや市民推進会議で継続的に評価して報告書を出しているというのは稀有で

す。

20年ぐらい前から、森に関する税金をつくったり、みどりを維持しようということで色々な税金も入れましたが、こういう市民による検証はありません。この市民推進会議が果たしている役割はすごく大きいと思っています。横浜市民の皆さんの実力です。皆さんの意識が非常に高いので継続できている取組です。本当にこういう仕組みはすごいことです。私もずっとお付き合いしていますが、行政がこういう形で、市民委員が会議をして報告書を出しているのはすごいことです。それが少しずつ定着しています。

多分、委員ひとりひとりあまりそういうことは意識していないかもしれません。私は研究者なので、少し違う側面から出席させてもらっていますが、市民委員の皆さんの役割はすごく大きいと思います。

愛護会と連携するとか、横の広がりがこれから最も重要になってくると思います。

(高橋委員)

望月先生が言われた広がりを示唆するようなことがありました。先日森づくりボランティアの取材に行ったときに、横須賀市の若い方がいました。在住・在学・在勤の方に講座は開放していて、在学期が横浜市の方だと思います。その方は、「こういう取組は横須賀にはないので、小学生などに市民の森を体験させるチャンスがあればいい。」と言っていました。市民の森でも県境や市境に近いところで何かするときには、市外の小学校の人にも体験させるような取組もいいかもしれません。

下水の水再生センターでも藤沢市に近いところでは、藤沢市の小学生の社会科見学を受け入れています。それは、境川が江ノ島のほうに流れていて、生活圏が同じ流域になるため、水環境のことを知っていただくためです。川の汚れを取ってきれいな水を海に流していることを知っていただくためにも、横浜市の学校だけでなく、要望があれば藤沢市など近隣の社会科見学も受け入れたりしています。

みどりアップでも市外に広めていくような取組をすると、横浜市の環境に対する価値が上がっていくのではないのでしょうか。

(望月委員)

49ページで、「みどりアップ計画を御存じですか」のアンケート結果があります。みどり税を入れるときからずっと統計を取り続けています。ランダムに5,000人にアンケートを実施して、どういうふう考えているかをサンプリング調査しています。

最初は「みどり税」ということで非常に認知度が高くなりました。「税金を1人当たり900円取ります」ということです。一時期ずっと下がりました。みどり税が定着したので、最近はあまり話題にされなくなりました。

令和3年では「知っている」が1パーセント上がっています。統計的なデータで見ると、1パーセント上がっていることは大変なことです。横浜市民370万人で1パーセント上がるのは、人数的にはものすごいことです。かなり定



	<p>着してきているのではないのでしょうか。</p> <p>私たちは市の行政など知りはしないのです。「他の計画を知っているか」と聞かれても、知りはしません。私もせいぜいトライアスロンの世界大会ぐらいです。</p> <p>ところが、みどりアップを「知っている」というのは50歳以上で50パーセント近く知っています。一生懸命やると、その行政の個別の事業について知っているのは大体2割か3割ぐらいです。非常に高い認知度です</p>
(高橋委員)	<p>この資料を見ると、みどりアップ計画よりもみどり税の認知度が高いですね。この資料の3の95です。</p>
(事務局)	<p>市民の税金に対する意識が非常に高いです。</p>
(村松委員)	<p>これは3年ごとに出るのですか。</p>
(事務局)	<p>毎年やっています。今回は3か年の振り返りのため3年分を掲載しています。</p>
	<p>望月委員から認知度の話がありました。令和元年から2年までは逆に6ポイントぐらい落ちています。これはコロナの影響で、日本がコロナ一色になってしまいました。我々が広報で出してもみどりアップに目が向かなかったこともあるだろうと思います。イベントも軒並中止になってしまいました。我々も出ていく機会がありませんでした。それが明らかな形で数字に出てきました。</p> <p>我々も、コロナの間を縫って広報を復活させていきました。その結果1ポイント以上、上げられたのかなとは思いますが、何をすることでどれだけ響くのか、我々も手探りですが、やらないと下がるのは明らかです。</p>
(望月委員)	<p>50ページの「評価・提案」で、皆さんが毎回一生懸命作っている「みどりアップ Action」について、是非、評価を高めてもらいたいです。毎回見ている、本当に市の広報にないような紙面作りをしています。多分、市民の皆さんだから作れるのです。市の広報だったらこういうパンフレットは作れないと思います。3年振り返りで何か出してもいいと思います。やはり大事ではないかと思えます。</p>
(高田部会長)	<p>みどりアップ Action を発行できることは、横浜市が市民推進会議という制度をつくっている評価にも直結します。私が地域で色々活動している中で、この市民推進会議の話もします。前計画の市民推進会議広報誌で取材していただいたことがあるので、それをいつも配っています。この市民推進会議のメンバーは大体15人ぐらいで、識者や団体の人の中で市民が5名参加できて、色々な意見が通ってこの広報誌ができることを話します。ストーリーとして分かりやすく説明もできて、本当にこの会議があること自体が素晴らしいです。制度が作られていること自体が評価されることだと思います。私たちの広報活動がどこまでできているかは反省しながらやっていかなければなりません。</p>

	<p>んが、そういうのを載せていただくことは色々な意味で効果があると思います。</p> <p>(高橋委員) 49 ページに、「市民推進会議の広報・見える化部会の事務局としても連携を取りながら一緒に活動しています」のようなものがあるといいかもしれません。</p> <p>(高田部会長) 地域みどりなどを話すと、私たちが特別なことをやっているように思われます。「90 パーセントも助成してもらえるのは全国にないですよ」と言います。森に財源を出す例はあるかもしれませんが、私たちが街でやることにまで出してもらえるのはないです。「私たちもやりたいんですよ」と軽く言います。「大丈夫です。こういうシステムがあるのです」というのを説明できることがまた素晴らしいと思います。「みんなが参加してやれるのだ」というのを本当に広報すべきだし、私は誇りに思っています。まずはアピールしてもらえればと思います。</p> <p>自治体の人にもときどき会います。「横浜市は全然違いますから、私たちのあこがれです」と、よく言われます。ただ財源があってやるのではなく、みんなの意見を聞いてアンケートを取って税金でやろうということになっています。そこが市民の皆さんにも分かってもらえればますます推進力になるのではないかと思います。</p> <p>(望月委員) そういった認知度は全国に少し広まっています。</p> <p>(国吉委員) 先日も、村松さんと取材した学生の1人は川崎から来た方で、もう1人は中国からの留学生で、たしか院生でした。6年ぐらい日本にいたので日本語も上手でしたが、横浜市内に住んでいます。横浜と言えば海外からの人が多い街でもあり、中にはコミュニティがなかなかできなくて寂しい思いをしている人もいます。この広報に関しても英語バージョンがあってもいいのかもしれませんが、それこそほかも全くやっていないことです。</p> <p>彼は中国の南のほうの町の人でした。「公園はあるけれど、森はない」と言っていました。なので、多分こういう市民や市でやっていることに興味を持って来たのではないかと思います。</p> <p>(村松委員) 「平地のほうは街で、山は山としてあるだけで、それを政府が全部管理しているので、市民は行きません」と言っていました。</p> <p>(国吉委員) 若い人たちが見るボランティアのアプリがあります。この間も参加したイベントに高校生や大学生がたくさん来ていました。主婦の人もいました。「何を見たのですか」と言ったら、アプリに色々なボランティアの情報がでていてそれを見て時間が合うものや、興味のあるものに参加すると言っていました。そういうのも利用するといいのかなと思いました。ほとんどの人がそれを見て来ていたので、</p>
--	---

	<p>びっくりしました。私も知りませんでした。</p>
(事務局)	<p>アプリは環境系やみどり系で検索できるのですか。</p>
(国吉委員)	<p>すべてのボランティアがあり福祉系などもあります。</p>
(村松委員)	<p>私も最初、みどりアップ Action と広報事業の評価の関係が分かりませんでした。広報・見える化部会は広報誌を出す役割と、市の広報の政策を評価するという、違う役割が二つあるわけです。市でやっていることを評価して提案するのがこの部会の意義だと思います。みどりアップ Action は少し違って、報告書には評価・提案と違う場所に詳しく掲載されています。</p> <p>横浜は日本でも有数の、市民や企業との協働がうまくいっているまちだと思います。みどりアップ Action をつくるのは協働事業みたいな位置付けで、同じメンバーで違う役割のことをやっているということです。評価・提案とは違うところで広報をしっかりとっていくという位置付けでもいいかと思います。</p>
(高橋委員)	<p>広報部会の広報活動はあくまでも市民目線の広報活動であり、みどりアップをどうするのかということです。行政と一緒に、何か市の意向をくんでやっているのかなとも見られてしまいます。切り分けはちゃんとして、立場や位置付けが違うことは明確にしたほうがいいです。みどりアップ Action については、行政の立場ではなく事務局として協力していることははっきりしておいたほうがいいです。</p>
(事務局)	<p>前回、前々回もありましたが、市の事業計画にそもそもみどりアップ Action は載らないという話をしました。それについては今言った役割分担の話です。市民推進会議の評価・提案はあくまでも市民目線で評価・提案をする役割があります。それは厳しい意見もあり、応援する立場からもあると思います。</p> <p>市民推進会議報告書案の中で、市の実績を 47 ページで話しましたが、その表の下に「市民推進会議の広報企画としては」とあり、市の事業と分ける形で記載しています。その上で、市民推進会議が機能している中で、市もそれなりに制度を所管し、非常にクォリティの高い広報誌が作れているということがあります。その部分は評価・提案に少し工夫して書き入れることができるかだと思います。実務的な部分でどこまでコメントを入れるかについて、あまり書きすぎても難しいので、書き方も工夫して、後で部会長とも検討して最終形をまとめていければと思っています。広報誌の中でもみどりアップ Action は表紙写真に人物が全面に入っていて、すごく目立ちます。また、手に取れるところに置いてあります。配架場所も我々が工夫しているところです。非常に意味のある広報誌になっていますので、記載をうまく入れていきたいと思っています。</p>

	<p>(高田部会長) 市民の皆さんに伝わるようにしていただければと思います。では、「効果的な広報の展開」についてはここまでにします。その他何かありますか。</p>
	<p>(高橋委員) 来年のみどりアップ Action のテーマで、横浜市内の養蜂家を取材できればと思います。ミツバチは花や果樹園にも関係するので、柱2と柱3です。ハチミツが取れれば横浜農場に関係します。横浜市内でハチミツを取って市内で販売しているような農家のところに取材はどうでしょうか。大体、2、3kmの範囲でミツバチは活動します。ミツバチの視点からみどりアップの評価ができるのではないのでしょうか。ミツバチの活動範囲に花や果樹園があればミツバチをとおしてみどりアップ計画の重要性もアピールできるのかなと思います。</p>
	<p>(高田委員) 何軒かありますか。</p>
	<p>(高橋委員) ありますね。 ふるさと納税は昔は体験型でしたが、今はコロナ禍になって、ハチミツを提供したものがあようです。だから、そういう養蜂家がいるのかなと思いました。 国学院大のたまプラーザキャンパスでも養蜂活動しているとか、弘明寺商店街で大岡小学校の卒業生による養蜂をしているとか、NTT東日本神奈川支店の屋上でもやっていると聞いたことがあります。今でもやっているのかどうかは分かりませんが。</p>
	<p>(高田部会長) 10年ぐらい前に、横浜市職員で養蜂をしている人がいて、一度話を伺おうと思っていました。新横浜辺りだったのでしょうか。</p>
	<p>(事務局) 場所までは分かりませんが、新横浜周辺で詳しい人を知っています。 元町・中華街駅の上のアメリカ山公園ではミツバチを飼っています。ハチミツ飴を作って販売もしています。どのぐらい収穫できているのかは分かりません。</p>
	<p>(高橋委員) イチゴのハウス栽培でもミツバチを使って授粉していましたが、それだと柱2だけになってしまうのかなと思います。柱3まで入れるには、屋外でやっているものがないと思います。</p>
	<p>(国吉委員) ナシ園もそうですね。ただ、長野かあちらのほうからその時期に授粉のために連れてきているらしいです。横浜にはいないので持ってきてやっています。</p>
	<p>(事務局) 次のみどりアップ Action は緑化がテーマになります。その中でどういうふうに組んでいくかというのがありません。</p>

	<p>養蜂は正に環境を表します。消毒薬を使ってしまってもハチが住めないとか、色々あります。そういうテーマをみどりアップにどう寄せていけるかも検討する必要がありますかと思っています。森も花も全部つなぐキャラクターとしてはミツバチは最適だと思いますが、みどりアップ計画の主題としているテーマではありませんので。</p>
(国吉委員)	<p>スズメバチは森に住んで、私たちには害を及ぼします。ミツバチも攻撃しているとか、何か関連付けると面白いです。</p> <p>果樹園は市民が非常に楽しみにしています。季節になったらブドウ刈りやナシ刈り、イチゴ刈りにも行きます。横浜で作っていることについて、若い方の認知度も割と高く、大勢利用していると思います。</p> <p>牛乳は一度取材していますが、養豚や養鶏関係もあると思います。取材の対象としては市民も興味があるのではないかと思います。</p>
(事務局)	<p>養蜂も畜産業です。そういったほかの組み合わせもあるかもしれません。</p>
(高田部会長)	<p>スズメバチがセイヨウミツバチを駆逐するらしいです。スズメバチはヒトには大変なことになりますが、そういう意味では一役買っていると聞きました。ミツバチも奥深いと思います。皆さん知らないことが多いので調べてもらって、またテーマにできたらと思います。</p>
(事務局)	<p>評価・提案について、今日皆さんからいただいた意見をまとめる作業をします。まとめたものを事前に部会長に確認してもらいます。後で共有はしますが、皆さんで意見交換になるよりは、一任しながら確認してもらいたいと思います。</p> <p>また、委員コメントを載せることについては、既に各部会で御案内させていただいていると思いますので、今回は部会長コメントのみ部会後に依頼します。</p> <p>手元に次の取材先である「森づくりボランティア入門講座」の資料があります。10月10日の午前中に取材予定です。出欠については改めてご連絡しますのでよろしく願います。</p> <p>引き続き取材や本会、調査部会もあります。よろしく願います。</p> <p>今日は貴重な意見ありがとうございました。奥井委員は本日いらっしゃいませんが、市民委員が勢ぞろいする部会です。非常に応援してもらい、我々としても有り難いです。いただいた意見を踏まえて、広報や事業も工夫していきます。多くの皆様にみどりアップを知っていただくことに重点を置いて取り組んでいきます。</p> <p>以上で、広報・見える化部会を終了いたします。ありがとうございました。</p>

	(一同) ありがとうございました。
資料 ・ 特記事項	次第 資料1 横浜みどりアップ計画市民推進会議 2021 年度報告書(案)【抜粋】 別紙1 横浜みどりアップ計画 [2019-2023] 3 か年事業目標及び進捗状況